

野辺山宇宙電波観測所特別公開

2026年
8月29日 土

https://www.nro.nao.ac.jp/visit/openday/openday_index.html

国立天文台・観測施設

特別公開

2026年
夏の

Special Open Day

https://murikabushi.jp/?page_id=6439#4

VERA石垣島観測局特別公開

8月23日 日 予定

<https://www.miz.nao.ac.jp/content/facility/vera-ishigakijima-station.html>

南の島の星まつり
石垣島天文台特別公開

2026年
8月15日 土
～ 8月23日 日

★8月19日（水）は伝統的七夕

夕涼みライブ&観望会開催

8月15日 土

https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/soshiki/kanko_bunka/ibenntojyouhou/Southern_Island_Star_Festival/11870.html

星と宇宙の日（三鷹）、いわて銀河フェスタ（水沢）、あさくち天文台フェスタ（岡山）の特別公開は秋に開催！（予定）

国立天文台ニュース

NAOJ NEWS

「国立天文台ニュース」は、国立天文台の研究成果を中心に、天文学の最新情報を紹介する季刊の広報誌です。多彩な内容満載のバックナンバーも、ぜひご覧ください。

<https://www.nao.ac.jp/about-naoj/reports/naoj-news/>



「国立天文台ニュース」では、広告掲載を募集しています。詳しくは広告要項をご覧ください。

<https://prc.nao.ac.jp/publication/AdvertisingGuidelines.html>



国立天文台天文情報センター出版室では、「国立天文台ニュース」の他にもさまざまなコンテンツを制作・発信しています。

<https://prc.nao.ac.jp/publication/index.html>



NAOJ

No. 350 National Astronomical Observatory of Japan

NEWS

国立天文台ニュース

PRINT ISSN 0915-8863
ONLINE ISSN 2436-7230

子どもたちの天文学

国立天文台の教育普及活動



2026

春

子どもたちの天文学

国立天文台の教育普及活動

宇宙への入り口

夜空を見上げて星の名前を知りたくなったとき、月の模様を不思議に思ったとき。子どもたちが宇宙に興味を持つきっかけは、人それぞれです。望遠鏡で月を観察した体験かもしれませんし、図鑑やゲーム、学校の授業で出会った1枚の写真かもしれません。国立天文台は、そうした好奇心の芽生えに寄り添い、宇宙や天文学への入り口となることを目指して、さまざまな教育普及活動を行っています。天文台を訪れて望遠鏡や展示を見学する施設公開、遊びながら宇宙のしくみを学べる教材やウェブコンテンツ、研究者が学校や地域へ出向く出前授業やワークショップなど、子どもたちが宇宙を感じ、学ぶ場は多様な形で広がっています。研究の最前線で働く人の仕事を知るキャリア教育の取り組みも、宇宙に関わる未来を思い描くきっかけになるかもしれません。また、国立天文台の望遠鏡はハワイやチリといった海外にもあり、そこでも地域の子どものために活動が行われています。

本特集では、天文台を訪れる体験から家庭や地域での学び、そして世界へと広がる取り組みまで、子どもたちと宇宙をつなぐ国立天文台の活動を紹介します。



石井未来
ISHII, Miki
ハワイ観測所



<https://www.nao.ac.jp/about-naoj/reports/naoj-news/milky-way-train/>
宮沢賢治生誕120周年記念連載「銀河鉄道の夜空へ」が第九回で終わりました。
10年をかけて走り切った軌跡をご覧ください。



アンケートフォームに本誌
のご感想やご要望をお寄せくださ
い。(回答期限：2026年6月30日)

<https://forms.cloud.microsoft/r/ZK1JKFxaFL>



もくじ

02-03	宇宙への入り口	石井 未来
04-05	天文台へ行こう	根本しおみ 蜂須賀一也 味村朱美子 石井 未来
06-07	遊んで学ぶ宇宙	石井 未来
08-09	ポケモン天文台	平松 正顕
10-11	学校や地域へ 宇宙を届ける	藤田登起子 小澤 友彦 西村 淳 石井 未来
12-13	宇宙の仕事を知る	赤堀 卓也 味村朱美子 西村 淳
14-15	海を越えた望遠鏡と 子どもたち	白田-佐藤 功美子 一山 琴世

次号予告

次号(26年夏号)は特集「アルマ望遠鏡の15周年」をお送りします。電波天文学の最先端を広げてきたアルマ望遠鏡の歴史を、最近の技術進化と観測結果を通して振り返ります。そして、より高い性能を獲得して新たな将来を切り開くアルマ2計画へ。チリ・アタカマ砂漠でアルマ望遠鏡を運用している現地スタッフも紹介します。

NAOJ NEWS / 国立天文台ニュース

No.350 2026年春号
© 2026 NAOJ (本誌記事の無断転載・放送を禁じます)

発行日/2026年5月11日
発行/大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
国立天文台ニュース編集委員会

〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
TEL 0422-34-3958 (出版室)
FAX 0422-34-3952 (出版室)
国立天文台代表 TEL 0422-34-3600
質問電話 TEL 0422-34-3688
shuppan@ml.nao.ac.jp
<https://www.nao.ac.jp/about-naoj/reports/naoj-news/>



国立天文台ニュース編集委員会
●編集委員：小久保英一郎(委員長・天文シミュレーションプロジェクト) / 石井未来(ハワイ観測所) / 岩田悠平(水沢VLIB観測所) / 勝川行雄(太陽観測科学プロジェクト) / 平松正顕(天文情報センター) / 伊藤哲也(アルマプロジェクト) / 藤井友香(科学研究部)
●編集：天文情報センター出版室

紙版の発送停止や発送先変更のご依頼は
こちらのフォームから
<https://forms.office.com/r/97uZF7KH2Y>



子どもたちの天文学

天文台へ行こう

施設公開と見学

国立天文台は東京・三鷹に本部があり、日本各地や海外にも観測施設があります。その多くで、一般公開や見学を通して、望遠鏡や研究の現場に触れる機会が用意されています。

三鷹キャンパス

三鷹キャンパスでは施設の団体見学を受け入れています。学校団体の場合は、職員による説明付きの見学（以下、ガイド付き見学）か4D2Uドームシアターの観覧（以下、4D2U）のうち、どちらか1つを選ぶことができます（幼稚園や保育園も受け入れ対象に入っていますが、小さな子どもには同じ敷地内にある「三鷹市星と森と絵本の家」のほうがおすすめかもしれません）。一般団体も含めた団体見学全体のうち、保育園から高校までの世代が占める割合は、約半数となっています。

根本しおみ
NEMOTO, Shiomi
天文情報センター

ガイド付き見学では、第一赤道儀室、太陽系ウォーク、天文台歴史館、展示室を職員がご案内します。築105年の第一赤道儀室は電気を使わず、星の追尾もドームの開閉や回転も全てが手動の観測室です。自分たちの手でドームのスリットを開けたり、屋根を回したりするアナログさが子どもたちには新鮮なようで、人気の見学施設となっています。

4D2Uは小学生以上の方を対象にしています。立体視できるメガネをかけて、3Dで宇宙旅行をしながら、天文学の一端に触れていただいています。

ガイド付き見学や4D2Uの他に、自分たちで自由に公開エリアを見て回る「自由見学」もできます。国立天文台のウェブサイトから「見学ワークシート」（主に小学生向け）をダウンロードして、問題を解きながら見学するのもおすすめです。こちらのガイドブックは団体見学だけでなく、一般の方も利用可能です。



小学校から届いた感想文

4D2Uドームシアター

詳しくはウェブページでご確認ください

<https://www.nao.ac.jp/about-naoj/organization/facilities/mitaka/visit.html>



水沢キャンパス

水沢VLBI観測所の歴史は、明治32年に設置された臨時緯度観測所から始まります。水沢キャンパス内には当時の建物が残されており、これらをめぐりながら歴史を紹介するガイドツアーを毎月数回、奥州宇宙遊学館主催で実施しています。ツアーの目玉は、現存する日本最古の観測室である眼視天頂儀室です。明治時代から観測が行われていた部屋でスライディンググルーフを開けると、参加者から歓声が上がります。

蜂須賀一也
HACHISUKA, Kazuya
水沢VLBI観測所

https://www.miz.nao.ac.jp/content/tour_guide_mizusawa_campus.html



石垣島天文台

石垣島天文台では、地元の保育園、小中学校や県内外の高校の団体見学を受け入れています。併設している星空学びの部屋には石垣島天文台のスタンプを押せるパンフレットが置いてあります。

味村朱美子
MIMURA, Sumiko
石垣島天文台

https://murikabushi.jp/?page_id=6439#4



すばる望遠鏡山麓施設

すばる望遠鏡の山麓施設は、日本から飛行機で約7時間のハワイ島ヒロにあります。ここで、科学・工学の学習を目的としたグループを対象に、施設見学や講演・授業を実施しています。すばる望遠鏡の最新の研究成果や観測装置のしくみ、観測所の仕事紹介、学年に応じた天文学の授業など、多彩なテーマに対応し、高校の校外学習などで利用されています。

石井未来
ISHII, Miki
ハワイ観測所

高校生への授業

https://subarutelescope.org/jp/education/lecture_hilo/

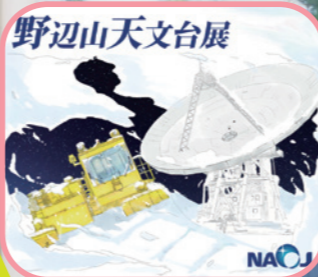


子どもたちの天文学

国立天文台望遠鏡キット2

国立天文台望遠鏡キットは、「一家に1台の望遠鏡」を目指して国立天文台がプロデュースした、小型で高性能、手ごろな価格の天体望遠鏡です。月のクレーターや土星の環、木星の衛星などを自分の目で観察することができます。家庭での星空観察はもちろん、学校の授業での月や惑星の観察や工作教室の教材などにも活用されています。宇宙や星を体感するきっかけになる入門用望遠鏡です。

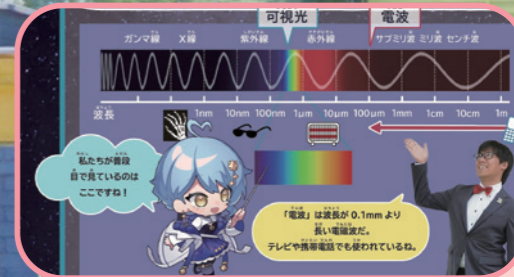
<https://www.nao.ac.jp/study/naoj-tel-kit/>



野辺山天文台展

野辺山天文台展は、野辺山宇宙電波観測所が制作した展示コンテンツを、科学館や学校へ提供する巡回型の展示企画です。電波天文学について分かりやすく紹介する解説パネルのほか、電波望遠鏡の3Dモデル、ステッカーやフォトスポットなども用意され、天文学を体験的に学べる展示として活用されています。これまでに全国50ヶ所で開催され、36万人以上が参加しました。学校の生徒による企画展示でも利用されています。

<https://www.nro.nao.ac.jp/visit/event/2025/exhibition/>



サンドキャッスルTRPG

テーブルトーク・ロールプレイングゲーム (TRPG) は、参加者が物語の登場人物となり、会話とサイコロで冒険を進めていくボードゲームの一種です。国立天文台が公開している「サンドキャッスルTRPG」は、物語の中に天文学などの考え方を取り入れ、科学を身近に感じられるよう作られています。例えば、2025年に公開された最新シナリオ「銀河海賊の襲撃」では、プレイヤーは宇宙クルーズ船の乗組員となり、実際の銀河観測プロジェクトをモチーフにした宇宙の冒険を体験します。

<https://prc.nao.ac.jp/publication/sandcastle/index-j.html#gpa>



遊んで学ぶ宇宙

子ども向け教育コンテンツ

国立天文台では、子どもたちが宇宙や科学に親しめるさまざまな教育コンテンツを公開しています。望遠鏡キットや子ども向けウェブサイト、ゲーム型教材、ミニ展示キットなど、その形もさまざまです。ここではその一部を紹介いたします。



ぐんぐん考える力を育むよみかぜ うちゅうのお話20 (西東社)



ぐんぐん考える力を育む かがくクイズブック (西東社)

国立天文台監修の本

国立天文台では子ども向けの書籍の監修も行っています。ここに紹介する書籍の他、子ども向けの図鑑や科学読み物など、多くの天文関連書籍に国立天文台の職員が監修者として協力しています。

アルマ望遠鏡の教育コンテンツ

アルマ望遠鏡のウェブサイトでは、宇宙の不思議や電波望遠鏡について、やさしい言葉で解説する「アルマキッズ」、「マンガで分かるアルマ望遠鏡」など、子どもから大人まで楽しめるさまざまなコンテンツが紹介されています。

<https://alma-telescope.jp/education/>



すばるキッズ

すばる望遠鏡の子ども向けサイト「すばるキッズ」は、公式キャラクターのスピーと一緒に、宇宙・天文の世界や、すばる望遠鏡についての学びを探究するサイトです。クイズに答えて「こども天文学者認定証」がもらえるコンテンツや、動画付きのお仕事紹介、遊びながら学べるペーパークラフトなど、科学に興味を持ち始めた小学校中学年以降の子どもが楽しめる内容になっています。

<https://subarutelescope.org/jp/Kids/index.html>



子どもたちの天文学

ポケモンと宇宙を探る

特別企画展

ポケモン天文台

©Pokémon.

©Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは
任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリークの商標です。

人気コンテンツ「ポケットモンスター」と天文学が出会ったら——。ポケモンの不思議な生態を入り口に、宇宙のさまざまな謎を楽しく学べる企画展「ポケモン天文台」が全国を巡回します。

みなさんは知っていましたか？「せいうんポケモン」がいることを。そして、それが進化して「げんしせいポケモン」、さらには「にちりんポケモン」になることを。

ポケモン（ポケットモンスター）は、今年30周年を迎える、言わずと知れた人気コンテンツです。世界を探検し、ポケモンを見つけ、謎を解いたり一緒に戦ったりしながら旅を進めていくその仕掛けは年齢を問わず人気で、さまざまなゲームやアニメやグッズの形になって多くの人の生活の中に存在しています。

太陽磁場を説明する
レアコイルとジバコイル

せいうんポケモンコスモッグ

げんしせいポケモンコスモウム

にちりんポケモンソルガレオ

そんなポケモンと国立天文台の夢のようなコラボレーションが実現したのが、特別企画展「ポケモン天文台」です。太陽系の惑星たちをそれぞれに似た特徴を持つポケモンと並べて解説したり、「せいうんポケモン」コスモッグから「げんしせいポケモン」コスモウム、「にちりんポケモン」ソルガレオへの進化とともに星の一生といろいろな波長での天文観測を説明したりと、ポケモンについても宇宙についても学べる展示を作ることができました。ポケモンには「ロケット団」「ギンガ団」「クエーサー社」など宇宙を感じさせる存在がもともとありますが、実際にコラボ展示を作ってみると、もっと深いところでポケモンと天文学はつながっていました。それは、どちらも好奇心を抱いて歩を進めていくところ。2つのものをかけあわせると、そのどちらもがさらに魅力的に見えてくるのです。

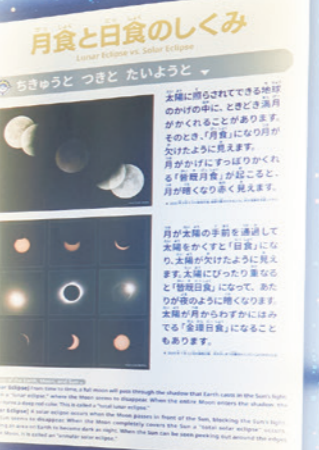
平松正顕
HIRAMATSU, Masaaki
天文情報センター



今回の企画展のために生まれた
ほしぞらピカチュウ



2つの世界が重なる
宇宙もポケモンももっと面白く進化



特別企画展
「ポケモン天文台」
今後の開催予定

- 2026年4月11日～6月14日：
けんしん郡山文化センター（福島県郡山市）
- 2026年7月5日～9月15日：
かくだ田園ホール（宮城県角田市）
- 2026年秋：豊橋市自然史博物館（愛知県豊橋市）
- 2026年冬：長崎歴史文化博物館（長崎県長崎市）

このあと、数年間全国を巡回予定!

子どもたちの天文学

学校や地域へ宇宙を届ける

出前授業とワークショップ

キラリ☆奥州市天文教室

子どもの居場所活動

すばる望遠鏡オンライン講演

電波天文実演

TMT講師派遣プログラム



あなたの教室に天文学者を届けます!

2025年度は
国内92校
海外32校
で授業を行いました

ふれあい天文学

国立天文台は、小中学校で天文学や宇宙の授業を行う「ふれあい天文学」を行っています。講師は国立天文台の天文学者※で、日本国内北は北海道から南は沖縄まで、離島に行くこともあります。オンライン授業も可能で、海外でも授業をしています。太陽や月のお話、星の誕生、宇宙の大きさ、銀河、ブラックホール、宇宙旅行といった星や宇宙の話題を学校へ届けています。

※天文学あるいは関連する分野の研究・開発をしている国立天文台職員および元職員

藤田登起子
FUJITA, Tokiko
天文情報センター

申し込みは小中学校の先生からしていただく必要がありますが、生徒さんから先生に「この授業を受けてみたい!」とお願いするところから始まることもありました。中には校長先生に直接お願いするような果敢な生徒さんも! 学校側の費用負担はありませんので、まずご相談ください。

授業を受けた生徒さんから素敵なメッセージをいただくこともあります



本などで読んで宇宙に詳しい子もいれば、それほど詳しくはなくても本質的な質問を投げかけてくれる子もいて、授業している側も楽しかった。(講師)

私はブラックホールが小さな星だとしてびっくりしました。(小学生)

「不思議に思う気持ちや知りたいという思いを大切にしてほしい」というメッセージは、私たち教員にとっても大きな励みとなりました。(教員)

- 1 チリからのオンライン授業。(グアナファト日本人学校)
- 2 副台長も授業を行います。(横浜市立永田中学校)
- 3 体育館で授業が実施されることもあります。(下関市立安岡中学校)
- 4 実験に熱中する授業でした。(北海道真駒内養護学校)
- 5 三鷹とZoomでつないでの授業。左から3番目が講師。(アビジャン補習授業校)
- 6 講師からのメッセージに聞き入っています。(山脇学園中学校)

募集要項

対象: 国内外の小学校(4年生以上)、中学校

内容: 天文学に関わる授業と質疑(学習指導要領とは異なります)

実施時期: 毎年10月から翌年2月の間

募集期間: 4月~5月末日

詳しくは特設ウェブページでご確認ください

<https://prc.nao.ac.jp/delivery/>



小澤友彦
OZAWA, Tomohiko
水沢VLBI観測所



西村 淳
NISHIMURA, Atsushi
野辺山宇宙電波観測所

<https://subarutelescope.org/jp/education/>



野辺山宇宙電波観測所では、手作り望遠鏡による「電波天文実演」を不定期で行っています。ホームセンターで買える資材と安価な受信機を使い、「誰でも」「簡単に」宇宙電波の観測を体験できます。望遠鏡の作り方も配布しています。



<https://tmt.nao.ac.jp/office/access.html>



宇宙の仕事を知る

キャリア教育

宇宙の研究は、天文学者だけで成り立っているわけではありません。観測装置を作る技術者や、研究を支える事務職員など、さまざまな人が関わっています。国立天文台では、子どもたちが宇宙に関わる仕事を知る機会も用意しています。

職業インタビュー

職業インタビューとは、小中高校生のインタビューを国立天文台職員が受け付ける事業です。学校外での総合学習の一環や、修学旅行の班別行動での訪問など、年間で10件程度を受け付けています。今回は、都内の中学1年生によるインタビューの依頼があり、筆者が対応させていただきました。新しい星を見つけたことはありますか？ 仕事をしていて楽しいとき・つらいときはいつですか？ あると便利な資格はありますか？ といった質問をいただき、中学生にも分かるように例え話を挟みながら、自分の言葉で説明しました。また、職員の理系・文系の割合は？ 1年間の新入社員の数は？ といった質問もいただき、こういった事実確認は事務部の方のサポートをいただいて数字を示しました。現在、理系が75%、文系が25%程度だそうです。思ったよりも文系が多いと驚くのが印象的で、天文学の研究は理系なれど、それを支える多くの職員がいるんだ、という発見があったようです。インタビューの冒頭、どうして国立天文台を選んだの？ と伺ったところ、星や宇宙に興味があって、それに関わる仕事を知らなかったようです。彼らの夢の世界が現実になるところ、それが国立天文台なのです。

赤堀卓也
AKAHORI, Takuya
水沢 VLBI 観測所



職場体験から始める天文学者への道

石垣島天文台の職場体験学習

石垣島天文台では、地元中学校の職場体験や県内高等学校のインターンシップなど、生徒が将来的に目指している、もしくは興味のある職業を実体験することで、今後の職業選択の幅を広げてもらえるよう、職場体験学習の受け入れを行っています。

味村朱美子
MIMURA, Sumiko
石垣島天文台



野辺山観測所の職場体験学習

野辺山宇宙電波観測所では中高生の皆さんに、国立天文台の仕事について体験してもらい興味を深めてもらうことを目的に、職場体験学習を毎年若干名実施しています。研究者から天文学や観測所の目的について話を聞くことからスタートし、技術者と一緒に定例保守点検を実施します。装置のしくみを簡単に学んだ後は、実際にアンテナに登ったり、超伝導受信機を操作してもらいます。また、裏方となる事務や広報の仕事も、実務を通して体験し、科学研究の最先端が多くの人によって支えられていることを感じてもらっています。

西村 淳
NISHIMURA, Atsushi
野辺山宇宙電波観測所



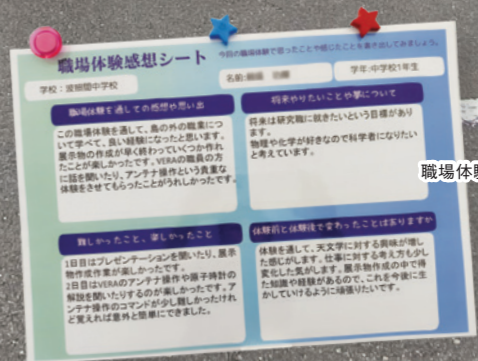
<https://www.nro.nao.ac.jp/visit/taiken.html>

天文学者に直接質問！



生徒さんたちから届いたメッセージと手作り新聞

<https://www.nao.ac.jp/about-naoj/organization/facilities/mitaka/school.html>



職場体験感想

子どもたちの天文学

日本

2022年6月にハワイ島南部のナアレフ小学校で初開催された「すばるスターズ」に参加した、児童・教員およびハワイ観測所職員。



ハワイ観測所独自の「すばるスターズ」

ハワイ島には、マウナケア天文台群の活動が十分に届いていない地域も多いため、ヒロ郊外の学校を訪問したり、子どもたちをヒロにある山麓施設に招いたりして科学技術に触れる機会を提供しています。



<https://subarutelescope.org/jp/news/topics/2022/08/23/3082.html>

ハワイ島南部のナアレフ小学校の児童がすばる望遠鏡山麓施設を見学。



<https://subarutelescope.org/jp/news/topics/2023/04/06/3247.html>

マウナケア天文普及委員会 (MKAOC) の活動

マウナケア山頂域の各天文台、中腹にあるオニヅカ・インフォメーション・センター、ハワイ大学などからなるMKAOCは、年間を通じて多彩なイベントを開催しています。中でも、地元の小中高生がマウナケアの記念コインをデザインする「マウナケアコインコンテスト」や、ヒロ山麓施設合同公開日である「七タブロックパーティー」は、当観測所が中心となって進めています。



表彰式の様子。本コンテストは著者が2011年にMKAOC事業として始めた。

マウナケアコインコンテスト公式サイト
<https://www.maunakeaobservatories.org/coin-contest>



七タブロックパーティーでの山麓施設所内ツアーの様子。



<https://subarutelescope.org/jp/news/topics/2024/11/15/3475.html>



すばる望遠鏡公式キャラクター スービー

ハワイ島での活動



白田・佐藤 功美子
USUDA-SATO, Kumiko
ハワイ観測所



https://www.asj.or.jp/jp/activities/geppou/item/118-1_16.pdf

ハワイ

海を越えた望遠鏡と子どもたち

すばる望遠鏡とアルマ望遠鏡の普及活動

ハワイのすばる望遠鏡とチリのアルマ望遠鏡。世界有数の観測拠点では、最先端の研究とともに、地元の子どもたちに宇宙や天文学の面白さを伝える活動も行われています。望遠鏡のある地域で広がる普及活動を紹介します。

他団体主催行事への参加

ハワイ科学技術博物館がさまざまな学校で企画するサイエンス・デーやサイエンス・ナイト、高校等で開催されるキャリア・デーにブースを出展し、地元の子どもたちと交流しています。さらに、地元のロボット工学大会には、複数の職員が審査員として協力しています。



ロボット工学大会にて、中学生のチームを審査するハワイ観測所職員。



<https://subarutelescope.org/jp/news/topics/2022/05/17/3055.html>

チリ観測所での活動

チリ観測所は中南米における日本人コミュニティに向けた天文学普及の拠点になっています。2019年7月にチリの一部で皆既日食が見られた際には、サンチャゴ日本人学校の子どもたちと教員保護者の皆さんをサンティアゴ事務所にお招きし、観望会を実施したこともありました。

さらにチリに加え、アルゼンチン、コスタリカ、パラグアイの日本人学校で、小中学生向けの講演会を毎年行っています。スライドを見ながらの授業に加え、夜には校庭で南半球ならではの星空観察を行い、アンテナ折り紙や分光器作成、太陽系スケールモデル作成といった工作などを通して、「身近な宇宙」を感じてもらえる機会を提供しています。



一山 琴世
ICHIYAMA, Kotoyo
チリ観測所

また、合同アルマ観測所 (JAO) のイベントにも出展し、チリでの天文学普及活動に寄与しています。チリの「天文の日」に合わせ、JAOサンティアゴオフィスでは毎年、オープンデーとして多様な体験型イベントを実施しています。太陽観測、研究者との談話会、コントロール室見学など、地域の学校や一般来場者向けに用意された30種類以上の活動の中で、日本の国立天文台ブースでは折り紙ワークショップを開催し、ロケットや星、アンテナの折り方を難易度別に紹介しています。



太陽観測

チリ

合同アルマ観測所 (JAO)



研究者との談話会



折り紙ワークショップ